

病害虫発生予察注意報 第4号

富山県農林水産総合技術センター所長

ダイズ吸実性カメムシ類の多発に注意！

7月25日現在、ダイズ吸実性カメムシ類が県内全域で多く、今後、子実被害の増加や大豆の青立ちの発生が懸念されます。このため基本防除を徹底するとともに、防除後もダイズ吸実性カメムシ類の発生が多い場合は、すみやかに追加防除を実施する。

◎病害虫名 ダイズ吸実性カメムシ類

1 発生地域: 県下全域

2 発生程度: 多い

3 注意報発令の根拠

(1) 昨年秋(令和5年9月)の払落し調査では4.0頭と平年(1.1頭)より多かった。

(2) 7月25日現在の払落し頭数は0.50頭と平年(0.05頭)より多い。また、調査を開始した平成14年から最も多く、子実被害が比較的多く見られた昨年(0.11頭)よりも多い(図1)。

(3) 払落し調査では、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシのいずれのカメムシも平年より多い(図2)。

(4) 8~9月の気温は高いと予報されており、カメムシ類の活動が活発になると推測される。

4 防除対策

(1) 莢伸長期と子実肥大期の2回の基本防除を確実に実施する。

(2) 散布後もほ場内にダイズ吸実性カメムシ類が確認される場合は、追加の防除を確実に行う。

(3) 8月上旬にダイズ吸実性カメムシ類が多いほ場や山際等の常発地では、追加の防除薬剤の準備を検討する。

(4) 抵抗性の発達を回避するため、同一系統の薬剤は連用を避ける。

<留意事項>

※農薬散布にあたっては、事前に周辺住民等に対して十分な周知に努め、周辺作物や住宅地等への飛散防止を徹底するとともに、農薬の使用回数、使用時期等の基準を遵守する。

※養蜂が行われている地域では、農薬散布前に養蜂業者へ連絡するなど、ミツバチの危害防止対策に努める。

【参考資料】

◎カメムシ類生息密度調査結果

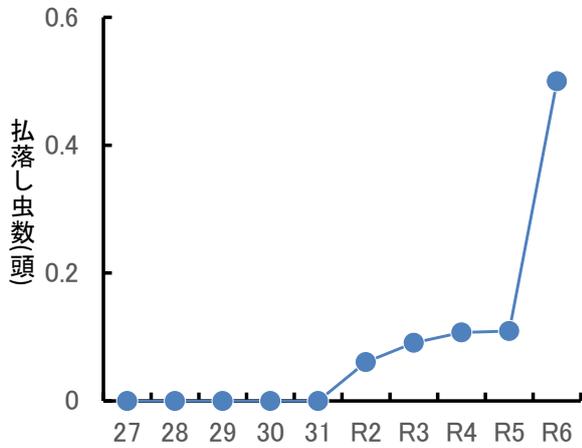


図1 払落し頭数の年次推移(7/25)

※1.8m間払落し調査

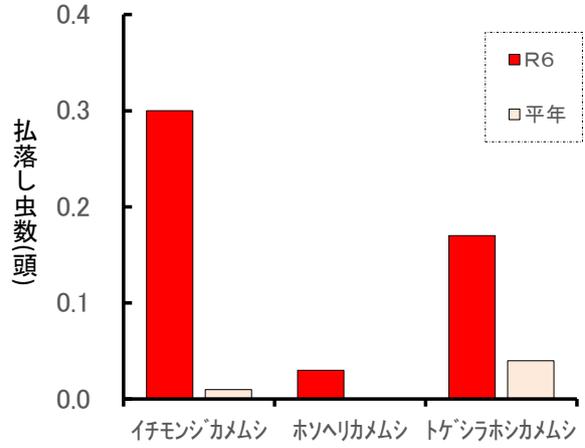


図2 種別払落し頭数(7/25)



イチモンジカメムシ



ホソヘリカメムシ



トゲシラホシカメムシ



吸実被害による被害粒



吸実被害による大豆の青立ち

問合せ先 農業研究所 病理昆虫課
TEL076-429-2111 FAX076-429-2701